

社会人の<学び>について

～学び直しの実施状況と現場から見た課題～

2016.07.15

『ケイコとマナブムックシリーズ』編集長

乾 喜一郎

発表者について

乾喜一郎

◆『ケイコとマナブ ムックシリーズ』編集長(2006年～)

以来現在まで、キャリアチェンジ・キャリアデベロップメントを目的とした「学び」を主なテーマとする情報誌を編集・制作。

さまざまな職種・学び方にわたり、社会人の学習の実例、活用の実例を数千例取り上げてきた。

※これまでの主な担当媒体

◇資格取得・キャリアチェンジ

『稼げる資格』、『専門職が手に入る本』、『好きを仕事にする本』、『就活で見つからなかった仕事を手に入れる本』など

◇通信講座／通信制大学関連

『通信講座大事典』、『家で楽しく学ぶ通信講座の本』など

◇社会人大学・大学院関連

『社会人＆学生のための大学・大学院選び』、『法科大学院入試ガイド』



◆GCDF-Japanキャリア・カウンセラー

◆白百合女子大学非常勤講師



◆文部科学省

「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム委員会」委員

「大学等における社会人の実践的・専門的な学び直しプログラムに関する検討会」

委員

前提～子どもの学びとの違い～

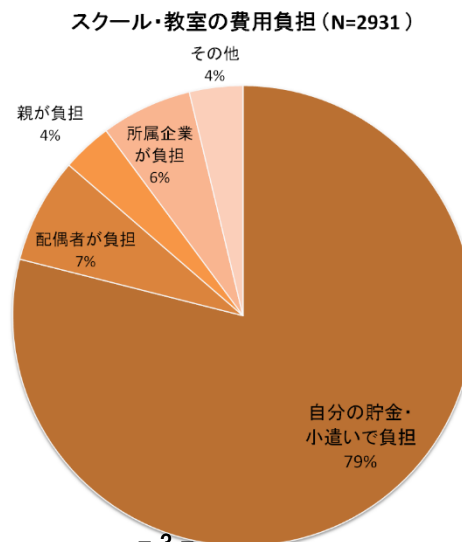
社会人の場合、

自らの意思と判断で、主に自らの費用負担による
「学び」を実施(≡学び商材の購入)

※ 旅行、飲食、美容、ファッション等他の「商材」と競合
⇒ 好況時は不況時より実施者は減少する傾向

Q. 直近に申し込んだスクール・教室に必要な
お金は誰の負担ですか？(SA)

(2013年実施 通学者における学び実態調査)
首都圏・関西・東海エリア在住の、
過去1年以内にスクールに通学した
20～60代男女を対象に
ケイコとマナブが実施したインターネット調査
回収数N=2,931(男性1,197 女性1,734)



データ①

【誰の費用負担か】
自分の貯金・小遣い・・・
79%
配偶者・・・7%
親・・・4%
所属企業・・・6%

前提～学び／学び直し

ここでは、

自らの意思と判断で費用を負担して実施した「学び事・習い事」の総称として「学び」を扱っています。

そのうち

「**仕事目的の学び**」あるいは

「**就職・転職目的の学び**」が

「**学び直し**」と近いイメージを持つ言葉と考えます。

期間： 継続的なものだけでなく、一回完結のものや短期集中講座も含んでいます

ジャンル： 習い事から資格取得などの仕事・スキルアップ目的のものまでを含みます

手段： 書籍などによる独学、インストラクター等に指導してもらうもの、
通信教育・Eラーニングも含みます

※データにより独学を除いているものがあります。その場合注記しています

社会人の学びにおける特徴 ①

- 「学びたい」という意欲は女性のほうが高く、
また男女ともに、若年であるほど高い。

データ②

← 学びをテーマにした情報誌の読者層は
内容を問わず女性の方が多く、
年齢層は20代～30代が中心。

- 「学び」の実施率についても男女とも若年ほど
高くなる傾向にあるが、
「学び意欲」ほどの差はついてはいない

データ③

.. 若年ほど費用・時間のハードルの影響が大きいと考えられる。

社会人の学びにおける特徴 ②

- 「学び」の未経験率は年代が上がっても減少しない

データ②

データ③

定性

⇒ 学んだ人はその後も学び続ける傾向

スクールに通って資格を取得し独立した人、社会人大学院生、専門学校への再進学者といった社会人学習者への取材では、多くの人々が、入学前のそれまでのキャリアにおいて何らかの「学び」を実施している。

例)アロマセラピストとしてサロンを営む女性
21歳 英会話スクールに通学
24歳 趣味としてネイル、続いてアロマを学ぶ
28歳 通信講座で医療事務を学ぶ
31歳 アロマセラピスト資格を取得
上位資格講座やリフレクソロジーなどを継続学習
34歳 サロン開業
36歳(取材時点)
メンタルトレーナー、心理カウンセリングを受講中

- ⇒ 自ら「学び」へお金を投じた経験のない人は、その後も「学び」を実施しにくい傾向にある
- さらに、一度実施して失敗したと感じている人も「学び」を実施しにくい

社会人の持つ学び意向

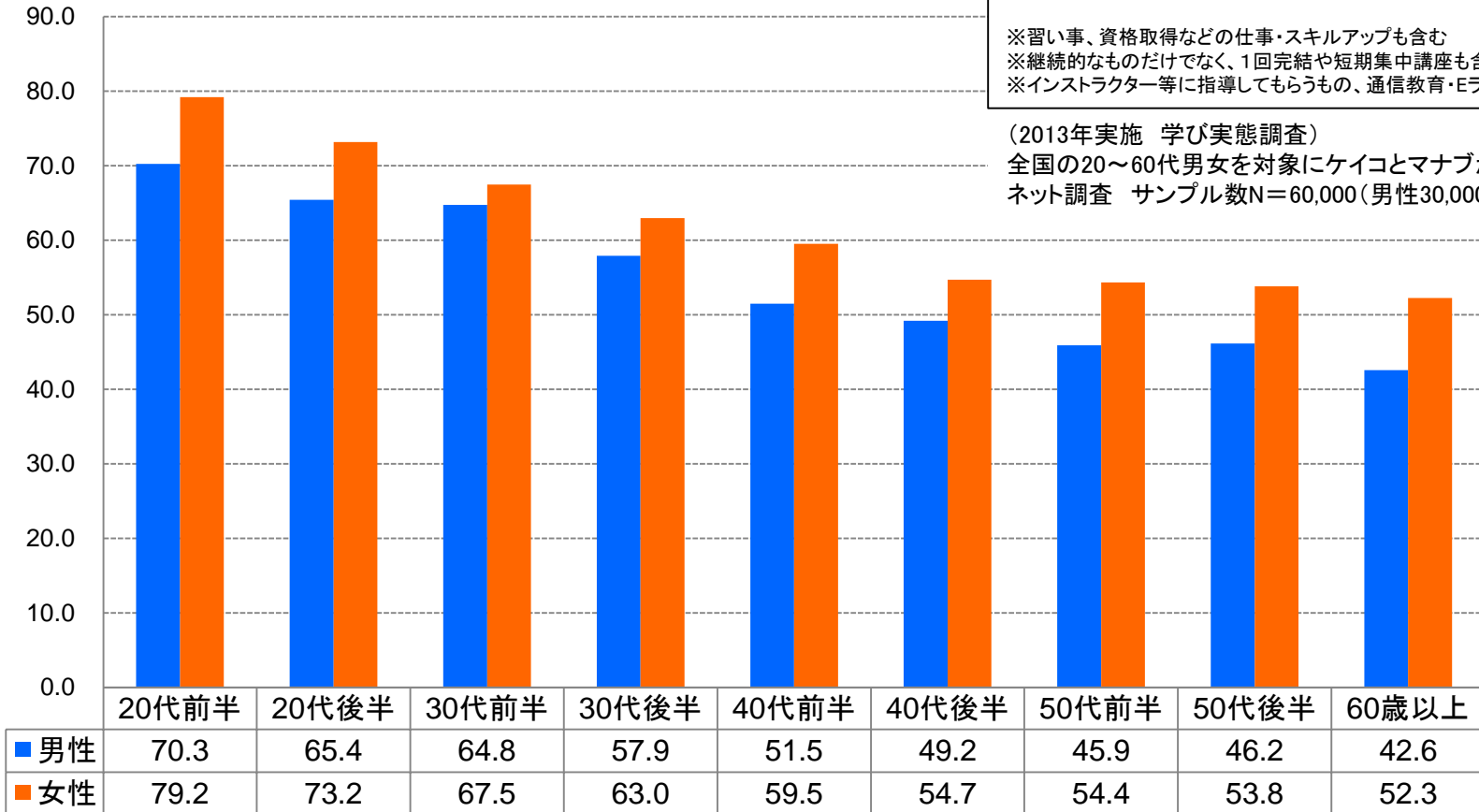
「ある」の回答率(%)

Q. この1年で何かを学びたいと思っ
たことはありますか？

※習い事、資格取得などの仕事・スキルアップも含む
※継続的なものだけでなく、1回完結や短期集中講座も含む
※インストラクター等に指導してもらうもの、通信教育・Eラーニングも含む

(2013年実施 学び実態調査)

全国の20～60代男女を対象にケイコとマナブが実施したインターネット調査 サンプル数N=60,000(男性30,000女性30,000)



サンプル数	男性	女性
20代前半	2519	2285
20代後半	3481	3715
30代前半	2313	2690
30代後半	3687	3310
40代前半	3066	4163
40代後半	2934	2878
50代前半	3689	4748
50代後半	2311	2896
60歳以上	6000	3315
合計	30000	30000

学び意欲・意向は、男女とも、若い世代ほど高い

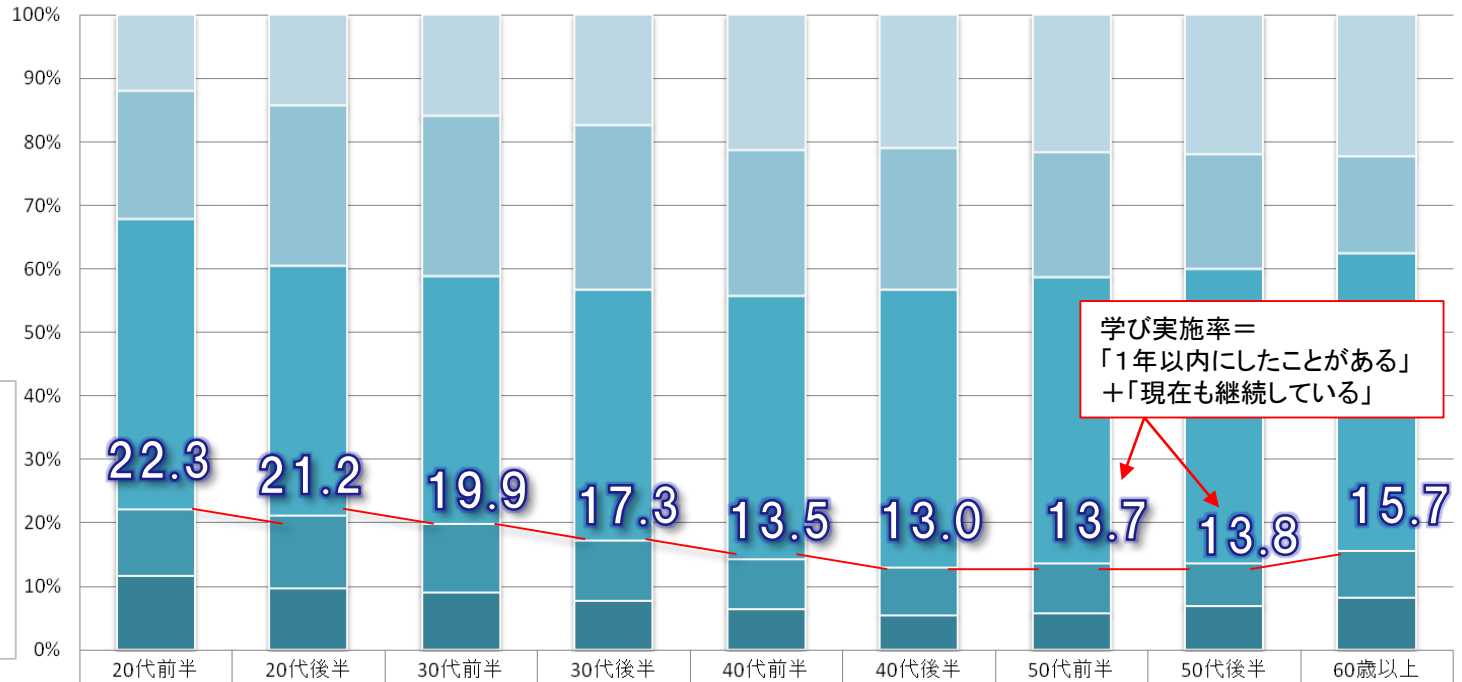
年齢帯別・「学び」実施率（男性）

Q. この一年間で学び事・習い事をしたことがありますか？
(SA)

学び実施状況

男性

(2013年実施 学び実態調査)
全国の20～60代男女を対象にケイコとマナブが実施したインターネット調査
サンプル数N=60,000
(男性30,000女性30,000)



学び実施率＝
「1年以内にしたことがある」
＋「現在も継続している」

	20代前半	20代後半	30代前半	30代後半	40代前半	40代後半	50代前半	50代後半	60歳以上
■した事はないし、したいと思わない	11.9	14.3	15.9	17.3	21.2	21.0	21.6	21.9	22.2
■した事はないが、したいと思っている	20.2	25.2	25.2	26.0	22.9	22.2	19.7	18.0	15.3
■1年以上前にしたことがある	45.6	39.3	38.9	39.4	41.4	43.8	45.0	46.3	46.9
■1年以内にしたことがある	10.5	11.4	10.8	9.5	8.0	7.5	7.9	6.7	7.4
■現在も継続している	11.8	9.8	9.1	7.8	6.5	5.5	5.8	7.1	8.3

男性では、若い世代ほど学び実施率が高い

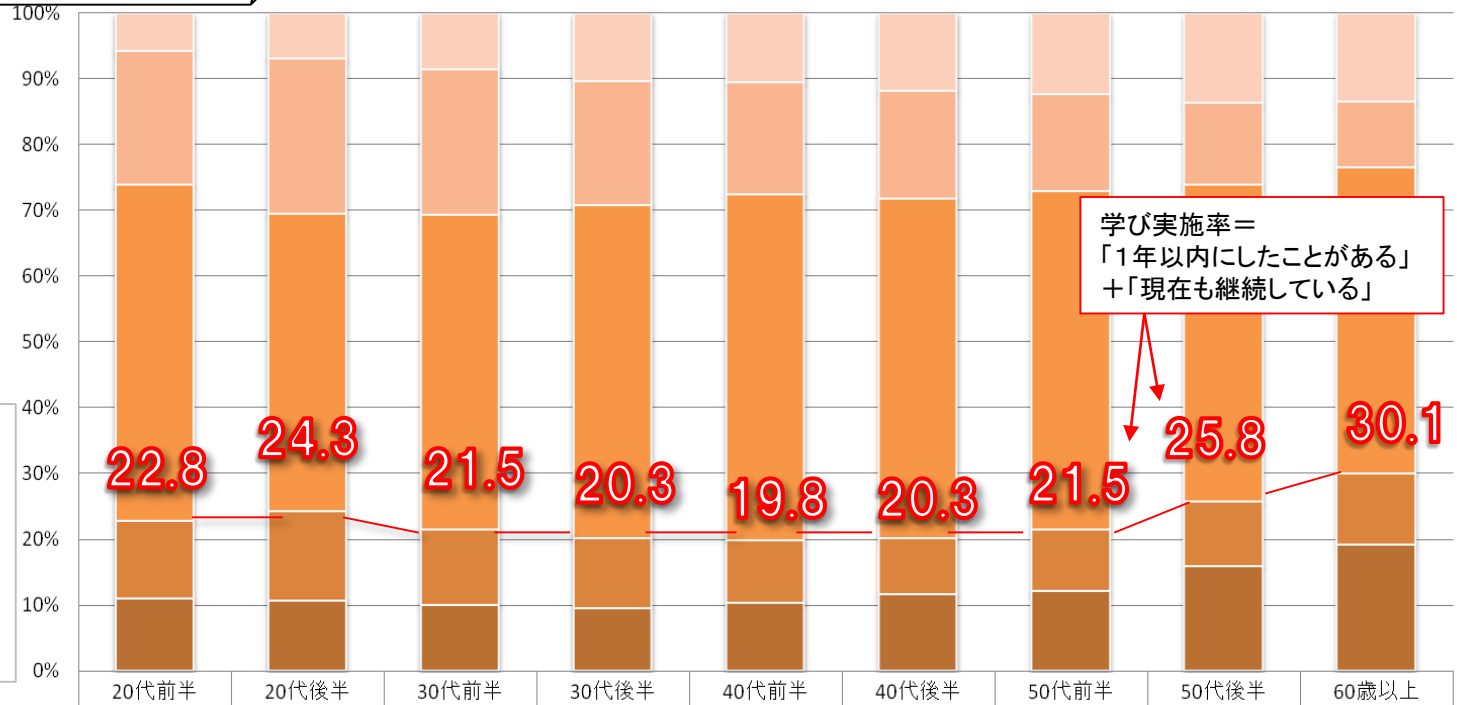
年齢帯別・「学び」実施率（女性）

Q. この一年間で学び事・習い事をしたことがありますか？
(SA)

学び実施状況

女性

(2013年実施 学び実態調査)
全国の20～60代男女を対象にケイコとマナブが実施したインターネット調査
サンプル数N=60,000
(男性30,000女性30,000)



	20代前半	20代後半	30代前半	30代後半	40代前半	40代後半	50代前半	50代後半	60歳以上
■した事はないし、したいと思わない	5.8	6.9	8.4	10.4	10.4	11.8	12.4	13.6	13.4
■した事はないが、したいと思っている	20.3	23.6	22.2	18.7	17.0	16.4	14.7	12.4	10.1
■それ以前にしたことがある	51.1	45.2	47.9	50.6	52.7	51.5	51.4	48.2	46.5
■1年以内にした事がある	11.7	13.6	11.4	10.7	9.4	8.7	9.3	9.8	10.8
■現在も継続している	11.1	10.7	10.1	9.6	10.4	11.6	12.2	16.0	19.3

**女性の学び実施率は、
20代後半・50代後半以降が高い**

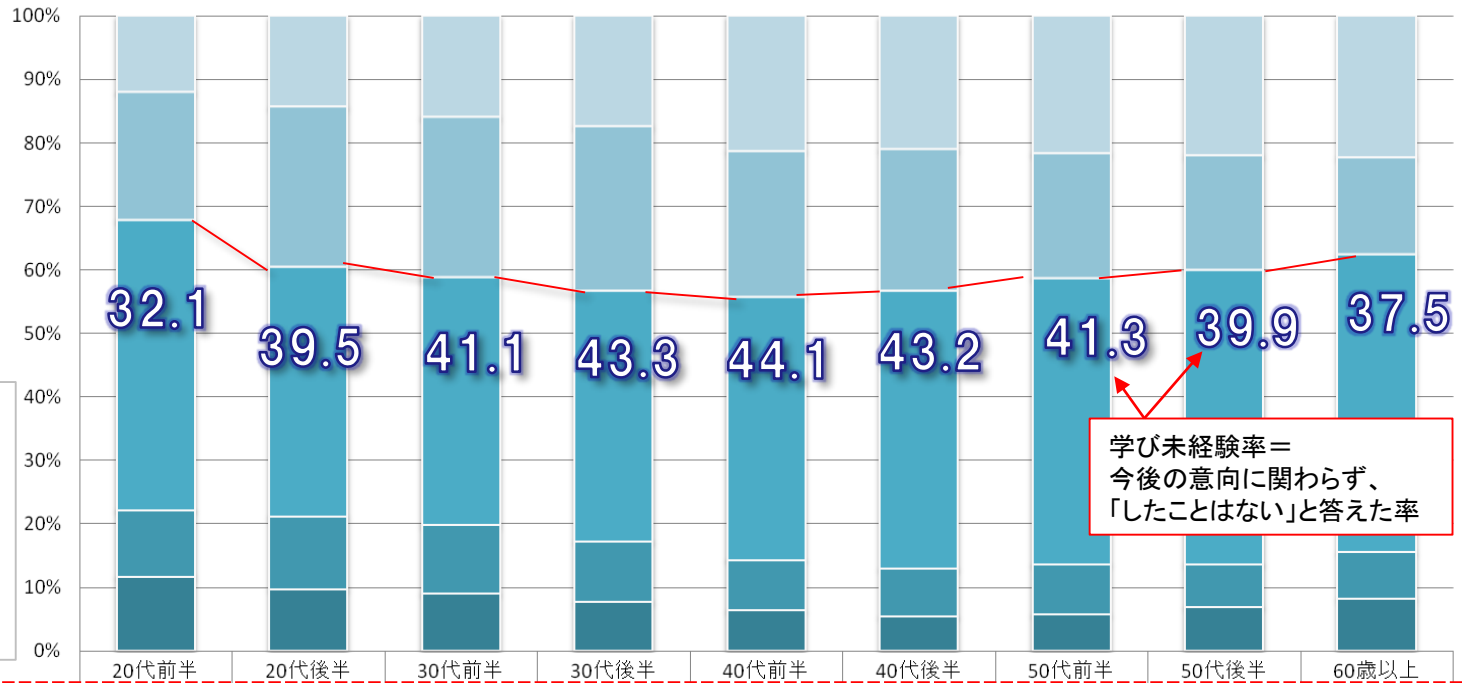
年齢帯別・「学び」未経験率（男性）

Q. この一年間で学び事・習い事をしたことがありますか？
(SA)

学び実施状況

男性

(2013年実施 学び実態調査)
全国の20～60代男女を対象にケイコとマナブが実施したインターネット調査
サンプル数N=60,000
(男性30,000女性30,000)



学び未経験率＝
今後の意向に関わらず、
「したことはない」と答えた率

	20代前半	20代後半	30代前半	30代後半	40代前半	40代後半	50代前半	50代後半	60歳以上
■ した事はないし、したいと思わない	11.9	14.3	15.9	17.3	21.2	21.0	21.6	21.9	22.2
■ した事はないが、したいと思っている	20.2	25.2	25.2	26.0	22.9	22.2	19.7	18.0	15.3
■ 1年以上前にしたことがある	45.6	39.3	38.9	39.4	41.4	43.8	45.0	46.3	46.9
■ 1年以内にしたことがある	10.5	11.4	10.8	9.5	8.0	7.5	7.9	6.7	7.4
■ 現在も継続している	11.8	9.8	9.1	7.8	6.5	5.5	5.8	7.1	8.3

**男性の「学び未経験率」は、
20代後半以降、ほぼ約40%前後のまま推移**

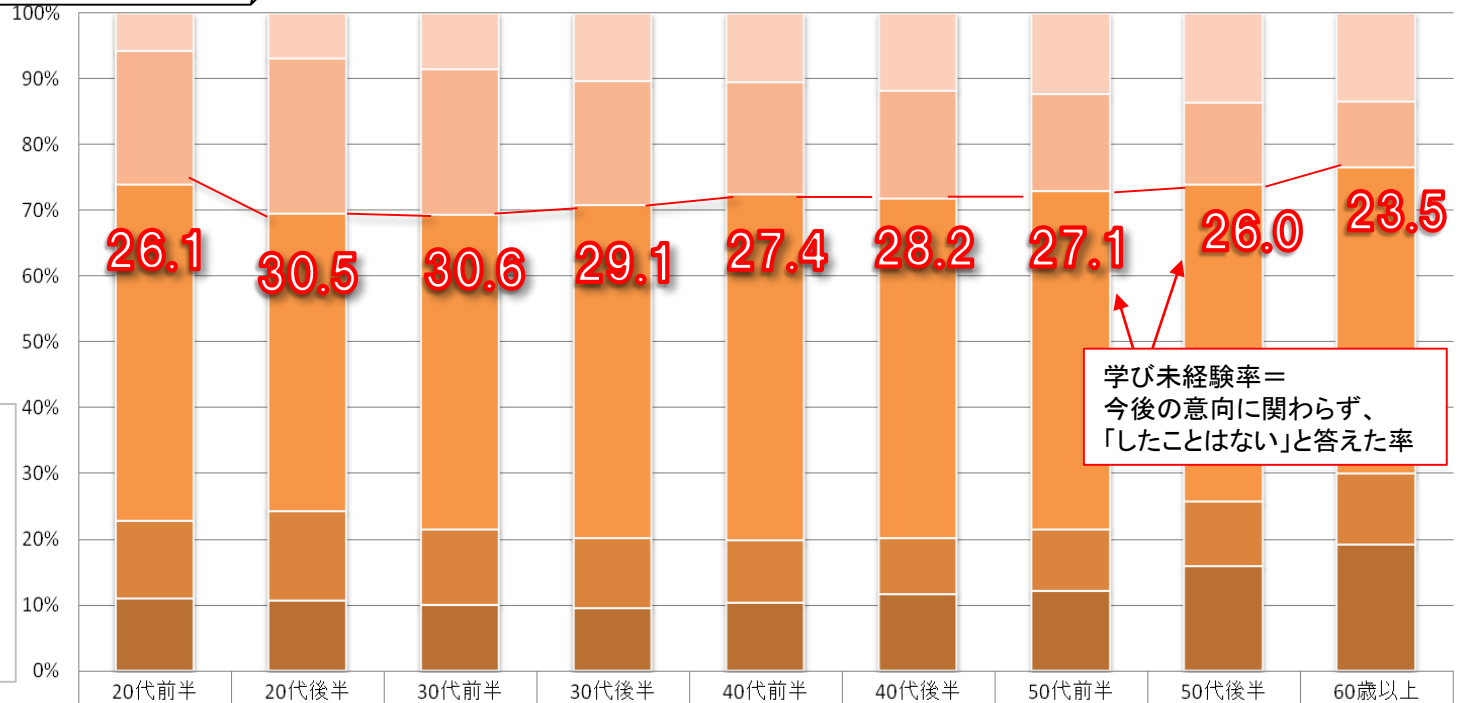
年齢帯別・「学び」未経験率（女性）

Q. この一年間で学び事・習い事をしたことがありますか？
(SA)

学び実施状況

女性

(2013年実施 学び実態調査)
全国の20～60代男女を対象にケイコとマナブが実施したインターネット調査
サンプル数N=60,000
(男性30,000女性30,000)



学び未経験率＝
今後の意向に関わらず、
「したことはない」と答えた率

	20代前半	20代後半	30代前半	30代後半	40代前半	40代後半	50代前半	50代後半	60歳以上
■した事はないし、したいと思わない	5.8	6.9	8.4	10.4	10.4	11.8	12.4	13.6	13.4
■した事はないが、したいと思っている	20.3	23.6	22.2	18.7	17.0	16.4	14.7	12.4	10.1
■それ以前にしたことがある	51.1	45.2	47.9	50.6	52.7	51.5	51.4	48.2	46.5
■1年以内にした事がある	11.7	13.6	11.4	10.7	9.4	8.7	9.3	9.8	10.8
■現在も継続している	11.1	10.7	10.1	9.6	10.4	11.6	12.2	16.0	19.3

女性の学び未経験率はわずかながら、年齢があがるほど経験者となっていくが、40代後半までは30%弱で推移

社会人が学ぶ「目的」

- 「就職・転職のため」に学んだ、という人は男性より女性の比率が高く、また男女とも若年ほど多い
- 「現在の仕事のため」は30-40代の男性で高い
- 年齢が上がると仕事目的は減少し、趣味目的が増。

データ④

- 「仕事」「趣味」を同時に学びの目的とする
「複合」層が一定数存在

データ⑤

取材では、あわよくば趣味を仕事にしたい、というケースと、仕事系の学びによってプライベートが充実する、というケース双方が存在

- 学び続けている人は仕事・趣味に関わらず学ぶことそのものが「楽しみ」となる傾向

定性

社会人が学ぶ「目的」～開始のきっかけ

定性

- 就職・転職を目的とする学びの場合、
「**現職への強い不満**」

(給与など待遇的な不満、仕事内容的な不満、体力的な不安)がきっかけとなるケースが多い。

特に、

- A 社会人となって「はじめて学ぶ」場合
- B 長期・高額为学校・講座を選ぶ場合

(事例より)

・アルバイトが長く、正社員になれるような専門性を身につけたかった(30代・男性・販売職→理学療法士)
・体力的にもう続けられないと思って退職。たまたま立ち寄った院でこれだと思った(30代・女性・販売職→セラピスト)
・入社時と同じ仕事が続いてやばいと思った(20代・男性・営業職→営業職(中小企業診断士))

- 転職の成功が目的となるため、
「自分も、学習完了(資格取得)が**確実に**できそう」
「修了後、**安定的**な将来像(就業イメージ)が描ける」
ことが条件となる

年齢帯別・「学び」の目的(男性)

20代男性は「就転職」や「将来に備え」て、
ミドル男性は「現在の仕事」のため、という傾向が顕著

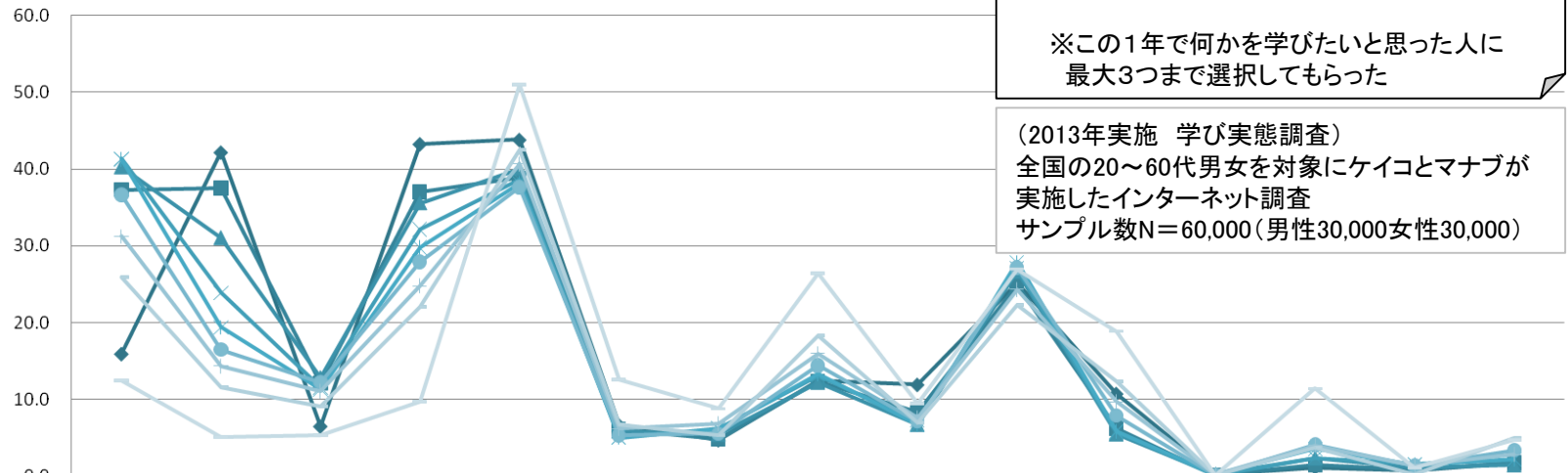
学びたいと思った理由

Q.学びたいと思った理由は何ですか？

※この1年で何かを学びたいと思った人に
最大3つまで選択してもらった

(2013年実施 学び実態調査)
全国の20～60代男女を対象にケイコとマナブが
実施したインターネット調査
サンプル数N=60,000(男性30,000女性30,000)

男性



	現在の仕事のため	就職・転職のため	独立・起業のため	将来に備えるため	教養・知識を深めるため	人との出会いづくりのため	ストレス発散・気分転換のため	プライベートを充実させるため	特技を作るため	レベルアップのため	好きなことに没頭するため	美容のため	健康のため	ダイエットのため	その他
20代前半	15.9	42.2	6.5	43.3	43.8	6.7	4.7	12.4	11.9	25.1	10.7	0.2	1.1	0.7	1.7
20代後半	37.3	37.5	12.1	37.0	38.8	6.1	4.9	12.3	8.4	24.9	6.2	0.1	1.5	0.8	1.7
30代前半	40.3	31.0	12.8	35.6	40.1	5.9	5.4	12.2	6.7	26.6	5.5	0.2	2.3	1.1	1.5
30代後半	41.3	23.9	11.6	32.2	38.6	5.0	6.3	13.1	7.3	27.1	5.7	0.1	2.4	1.5	2.2
40代前半	41.2	19.4	11.3	29.8	38.2	5.1	6.1	13.3	6.7	27.9	5.8	0.2	3.5	1.5	2.2
40代後半	36.6	16.5	12.3	27.9	37.7	5.3	5.5	14.5	7.1	27.1	7.9	0.1	4.1	1.3	3.4
50代前半	31.2	14.3	11.1	24.8	40.7	6.2	6.8	16.0	7.6	24.3	9.7	0.2	4.0	1.3	2.8
50代後半	26.0	11.5	9.1	22.0	42.5	6.7	5.3	18.3	6.9	22.3	12.4	0.1	3.7	0.2	5.0
60歳以上	12.5	5.1	5.3	9.7	50.9	12.5	8.8	26.4	9.5	27.0	18.9	0.1	11.4	1.1	4.7

年齢帯別・「学び」の目的(女性)

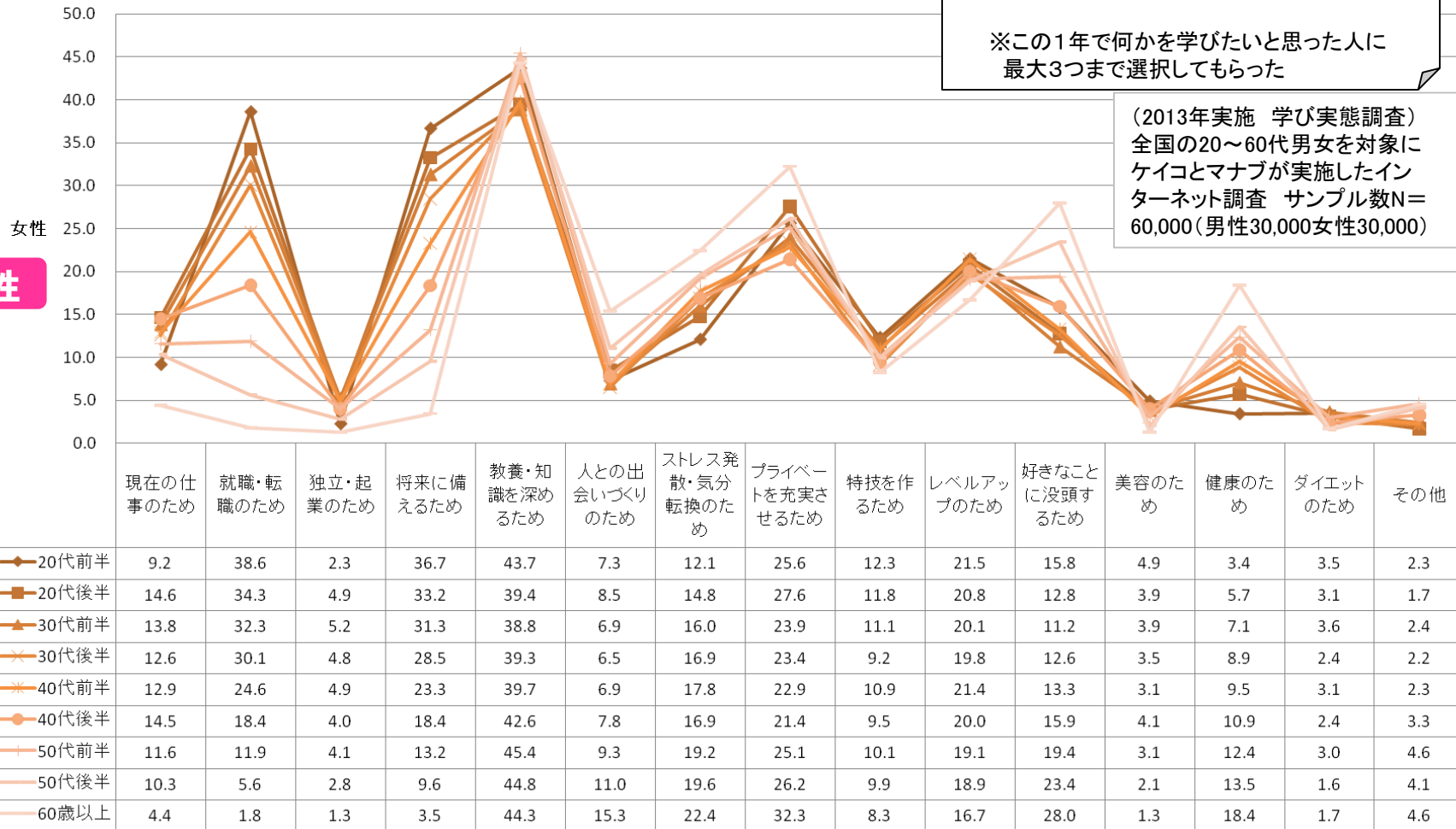
女性は、「現在の仕事のため」より「就職・転職のため」が多めとなる傾向。

学びたいと思った理由

Q.学びたいと思った理由は何ですか？

※この1年で何かを学びたいと思った人に最大3つまで選択してもらった

(2013年実施 学び実態調査)
全国の20～60代男女を対象に
ケイコとマナブが実施したイン
ターネット調査 サンプル数N=
60,000(男性30,000女性30,000)



女性

社会人が学ぶ「目的」

「学んだ理由」として、仕事目的／趣味目的を両方答える層が一定数存在

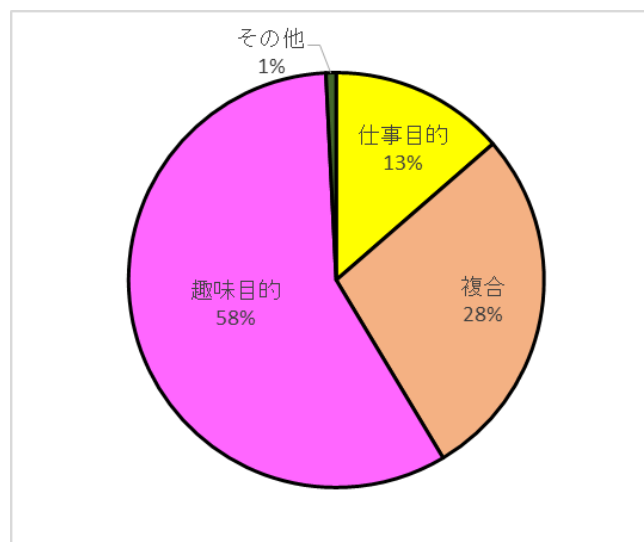
Q.直近に申し込んだ学び事を、学んだ目的は
なんですか？(MA)

学ぶ目的について、仕事目的／趣味目的を
以下のように定義づけ再集計した

○仕事目的＝「現在の仕事のため」「就職・転職のため」「独立・起
業のため」「将来に備えるため」のいずれかのみを回答

○趣味目的＝「教養・知識を深めるため」「人との出会いづくりのため」「ストレス発散・気分転換のため」「特技をつくるため」「プライ
ベートを充実させるため」「好きなことに没頭するため」「美容のため」「健康のため」「ダイエットのため」のいずれかのみを回答

○複合＝仕事目的・趣味目的の両方にわたって回答
○その他＝その他のみを回答した者



【学ぶ目的】
 仕事目的・・・13%
 複合・・・28%
 趣味目的・・・58%

(2013年実施 通学者における学び実態調査)
 首都圏・関西・東海エリア在住の、
 過去1年以内にスクールに通学した
 20～60代女性を対象に
 ケイコとマナブが実施したインターネット調査
 回収数N＝女性1,734

社会人が利用する「学び」の手段

- 学習の手段として選択されているのは
男女・目的を問わず「スクール・教室」が多い。データ⑥
データ⑦
- 仕事目的での学びの場合、
主要都市圏以外では選択肢が少なくなるため、
通信講座、独学がより多く選択されている。
- 大学・大学院は
若年層の仕事目的、シニア層の教養目的で選ばれる一方、
仕事目的の関心の高いミドル層で実施率が下がる。
- 専門学校は就職・転職目的の「再進学」で選ばれている。
- 動画視聴、アプリの利用などICTは仕事目的の活用が多い。

仕事目的の学びの期間・費用

「学び」の手段	費用(中心的な価格帯)	期間
社会人向け大学院	150～200万／年	1～2年
専門学校	50～150万／年	1～3年
民間スクール・教室	30～100万	3カ月～1年
通信制大学	15～30万／年	1～4年
通信講座	2～5万	3カ月～6カ月
E-learning	無料～2万	数回

**仕事目的の学びの場合、時間数も多く、また実習や実技・協同学習の比重も高いため
修了までにかかる金額は比較的高額**



学び手にとっては大きな投資となる

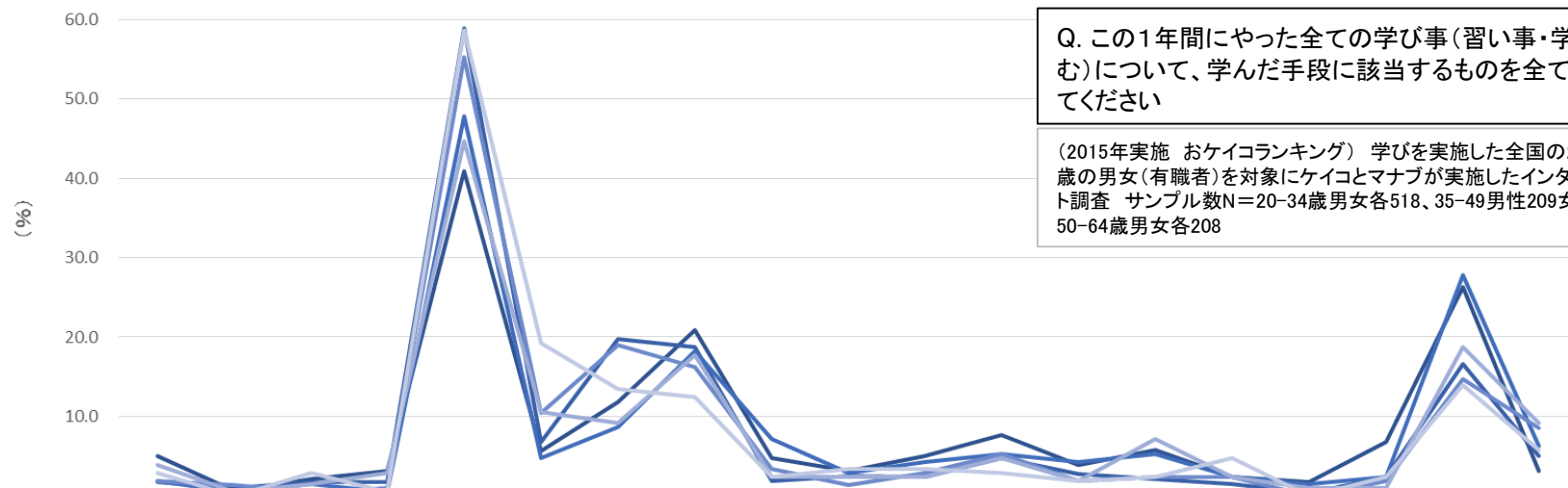
性別・年齢帯別／学びの手段

男女ともに、「スクール・教室」が最も多くを占める。

ほか、通信講座は20-34歳で、カルチャーセンターは50-64歳の利用が多い

Q. この1年間にやった全ての学び事(習い事・学習含む)について、学んだ手段に該当するものを全て教えてください

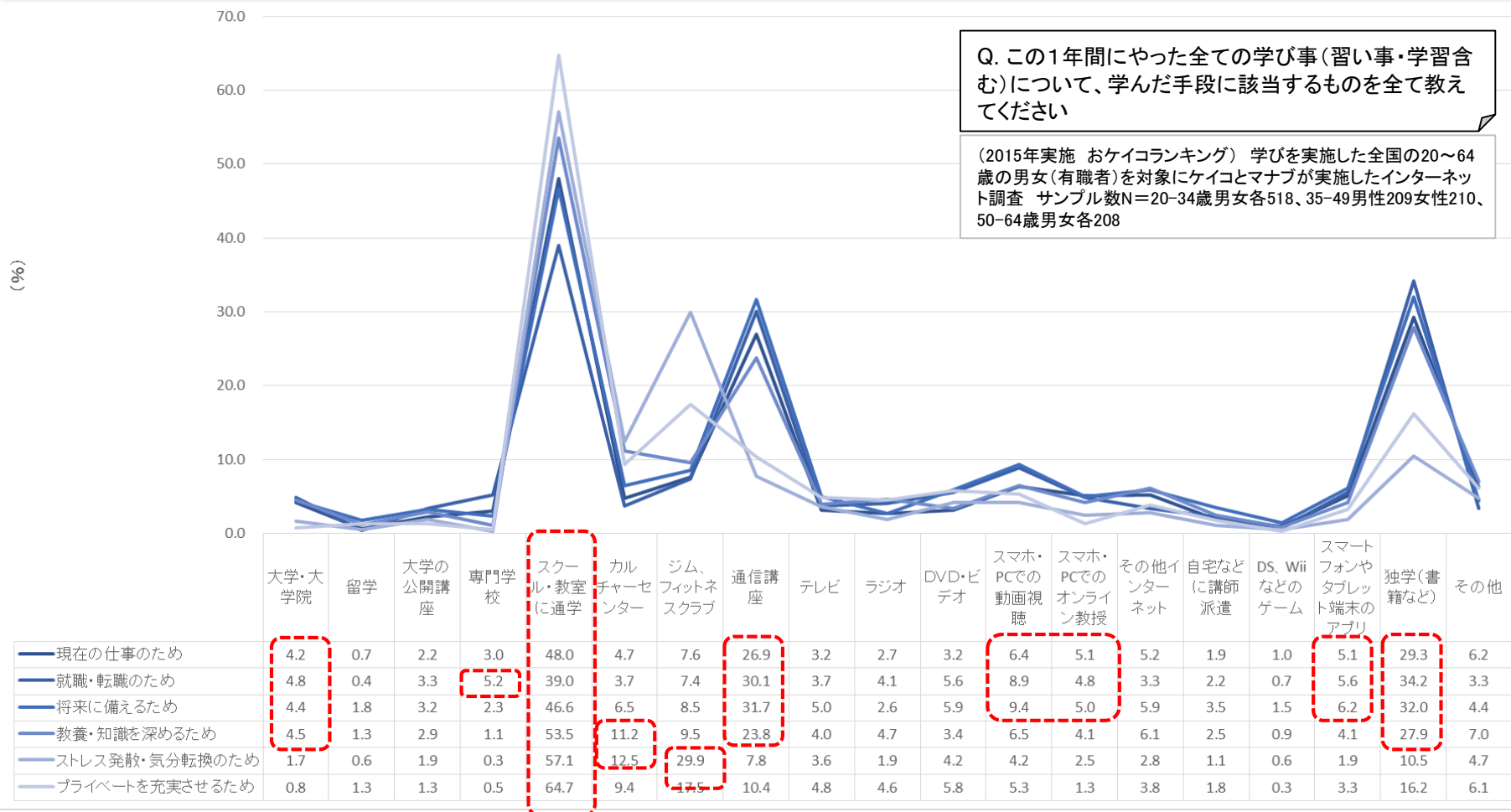
(2015年実施 お케이コランキング) 学びを実施した全国の20~64歳の男女(有職者)を対象にケイコとマナブが実施したインターネット調査 サンプル数N=20-34歳男女各518、35-49男性209女性210、50-64歳男女各208



	大学・大学院	留学	大学の公開講座	専門学校	スクール・教室に通学	カルチャーセンター	ジム、フィットネスクラブ	通信講座	テレビ	ラジオ	DVD・ビデオ	スマホ・PCでの動画視聴	スマホ・PCでのオンライン教授	その他インターネット	自宅などに講師派遣	DS、Wiiなどのゲーム	スマートフォンやタブレット端末のアプリ	独学(書籍など)	その他
男性 20-34	5.0	0.6	2.1	3.1	40.9	5.6	11.8	20.8	4.8	3.1	5.0	7.7	3.9	5.8	2.3	1.7	6.8	26.3	3.1
女性 20-34	1.7	1.0	1.7	1.7	58.9	6.8	19.7	18.7	1.9	2.5	2.3	4.8	2.7	2.1	1.5	0.4	2.3	16.6	5.0
男性 35-49	1.9	0.5	1.4	0.5	47.8	4.8	8.6	18.2	7.2	2.9	4.3	5.3	4.3	5.3	2.4	1.4	2.4	27.8	6.2
女性 35-49	1.9	1.4	0.5	1.0	55.2	10.5	19.0	16.2	3.3	1.4	2.9	5.2	1.9	2.4	2.4	0.0	1.9	14.8	8.6
男性 50-64	3.8	0.5	1.4	2.9	44.7	10.6	9.1	17.8	2.4	2.4	2.4	4.8	1.9	7.2	2.4	1.0	1.0	18.8	9.1
女性 50-64	2.9	0.0	2.9	0.5	58.7	19.2	13.5	12.5	2.4	3.4	3.4	2.9	1.9	2.4	4.8	0.0	2.4	13.9	5.8

学ぶ目的別／学びの手段

仕事目的では「スクール・教室」のほか通信講座・独学など多様な手段を利用
ICT(動画視聴・アプリ)の学びも仕事目的で利用されている



学び実施者が評価するもの

- 資格を活用されている方、社会人大学院の修了者へのインタビューでは、「学び」のメリットとして「知識・スキル」や「資格」の獲得のみならず、専門家としての活動に必要な「コミュニケーション能力」や「問題解決力」などの力や「**人的ネットワーク**」(先生・協会、および学習仲間など)といった、演習・実習や実技、勉強会など学びの過程から得たものが挙がる。

定性

- また、教育機関への評価として、
「**就職・転職・独立のためのバックアップ**」
「**上達・資格合格・受講継続のための学習時のバックアップ**」
などのサポートが挙がる。
⇒「次回」の学びの際にも重視

定性

**学びを実施し、活用している人が評価ポイントとして挙げるのは
教育方法・環境・バックアップ態勢**

学び実施者が評価するもの

学び実施者が評価する 教育機関の「バックアップ態勢」事例

●学習前の支援

「学び」によって就くことができる専門職には一般に知られていないものも多く、事前ガイダンスが実施される(多数)。

- ・業界・職場に興味を持った人に対する、**業界ガイドの配布と対面でのガイダンス**の実施(通学スクール・医療分野)
- ・カウンセリングによる希望の明確化と、目指すべき**資格の決定支援**(例:「ITエンジニア」を志望する人の理由を聞き、総合系なのかベンダー系なのか、あるいはどこまでを就業前にめざすのかを一緒にきめていく(通学スクール・ICT分野))

●資格合格／受講継続のためのバックアップ

- ・資格合格までの**目標のスマールステップ化**とスケジュールリング支援(例:難関資格の場合、合格までに必要な学習内容も多く、学習中には自分がどこまでできているのかなどがわからなくなってしまうことも多い。そこで合格までになすべきことをスマールステップ化し、試験日までのスケジュールをチューターが共にチェックしていく(通学スクール・法律分野))
- ・ICTを活用し、学習者独自のマイページで学習を管理。学習の**進捗状況に応じ、適切なタイミングでアラート**を挙げ、継続を促す(通信講座)
- ・一定レベルまで上達を果たしたところで作品展やショーを開催(通学スクール・クラフト系、Web系など)

●学習と経験の往復

- ・実際の**現場におけるインターンシップの実施**。現場のオーナーや先輩がOBOGであることも多く、身近なロールモデルともなっている。インターン先・実習先にそのまま就業が決まることも多い(医療技術系専門学校、整体・カイロプラクティック・セラピスト系スクールなど多数)
- ・実地経験を積むための**ボランティアの機会の創出**・情報提供・引率(通信講座・医療支援)

●就業支援

- ・就職活動で学んだ内容、および自分の個性を訴求しやすくするための**作品集の制作指導**(通学スクール・Webデザイン)
- ・系列派遣会社への登録・履歴書作成・面接の指導(多数)
- ・卒業後長期間転職情報を提供(通学スクール・セラピー系)

●独立開業の支援、コンサルテーション

- ・資金計画や経営計画、立地選定など開業指導(通学・飲食)
- ・ホームページの制作と集客のための**Webマーケティングノウハウ**の実地指導(資格検定団体・クラフト)
- ・商材の仕入れルートの紹介、共同購入(通学・ネイル)

●継続学習機会の提供、人的ネットワークづくりの支援

- ・資格検定団体が実施している、最新情報のアップデートのために行われている**セミナーや勉強会は同時に人的交流の機会**ともなっている。(ビジネス系、美容系、医療系など多数)
- ・**最新トピックス**についての情報誌の発行(通信講座・医療)

「学び」開始までの課題 ①②

「学び」開始の阻害要因は ①費用 ②時間・疲労 ③学びへの不安

・費用 学習開始時の費用の手当が難しい

定性

データ⑧

- ※ 雇用保険に加入していて教育訓練給付金の対象者だったとしても、対象講座は一部にとどまるほか、給付金は学んだ後に給付されるため、開始時点で払い込む金額が手当できない。民間スクールの場合、ローンや分割が組めないことも少なくない
- ※ 社会人大学院では、一定の経験をもとに学べるため仕事での活用につなげやすい30-40代において、子育てとの重複から金銭的な負荷が過大となり、逆に利用率が低くなっている。

・時間/疲労 勤務時間が長く、学習時間が取れない また仕事による疲労で休日の使用も困難

- ※ 特に就職・転職を目的とした学びを検討されている方の場合、現職の賃金・待遇・勤務環境に問題のある方も多く、必然的に、
 - ・貯蓄がない／少ない
 - ・学習のための時間を捻出したことが難しい
 - ・休日を休養以外に費やすことが難しい状態になっている。

「学び」開始までの課題 ③

・不安・疑念 学びの有効性に実感が持てない／ 自らの学習に対する自信が持てない

【就職・転職目的での学びを、はじめて検討される方の場合】

定性

- ※ 就学期間において、学習での成功体験を持っていないことも多い。
（「勉強ができない」と言われ続け学習性無力感の状態になっており、
「どうせ私にはできない」と思い込まれてしまっている）。
- ※ また、就職後も、非正規の場合だけでなく正規社員の場合も
職場外研修の機会がない場合、業務に学習が反映された経験がない。
- ※ また周囲にも学び実施者が少なく、成功体験のあるロールモデルと出会う機会も持ちにくい。

【過去の学習において失敗経験を持っている方の場合】

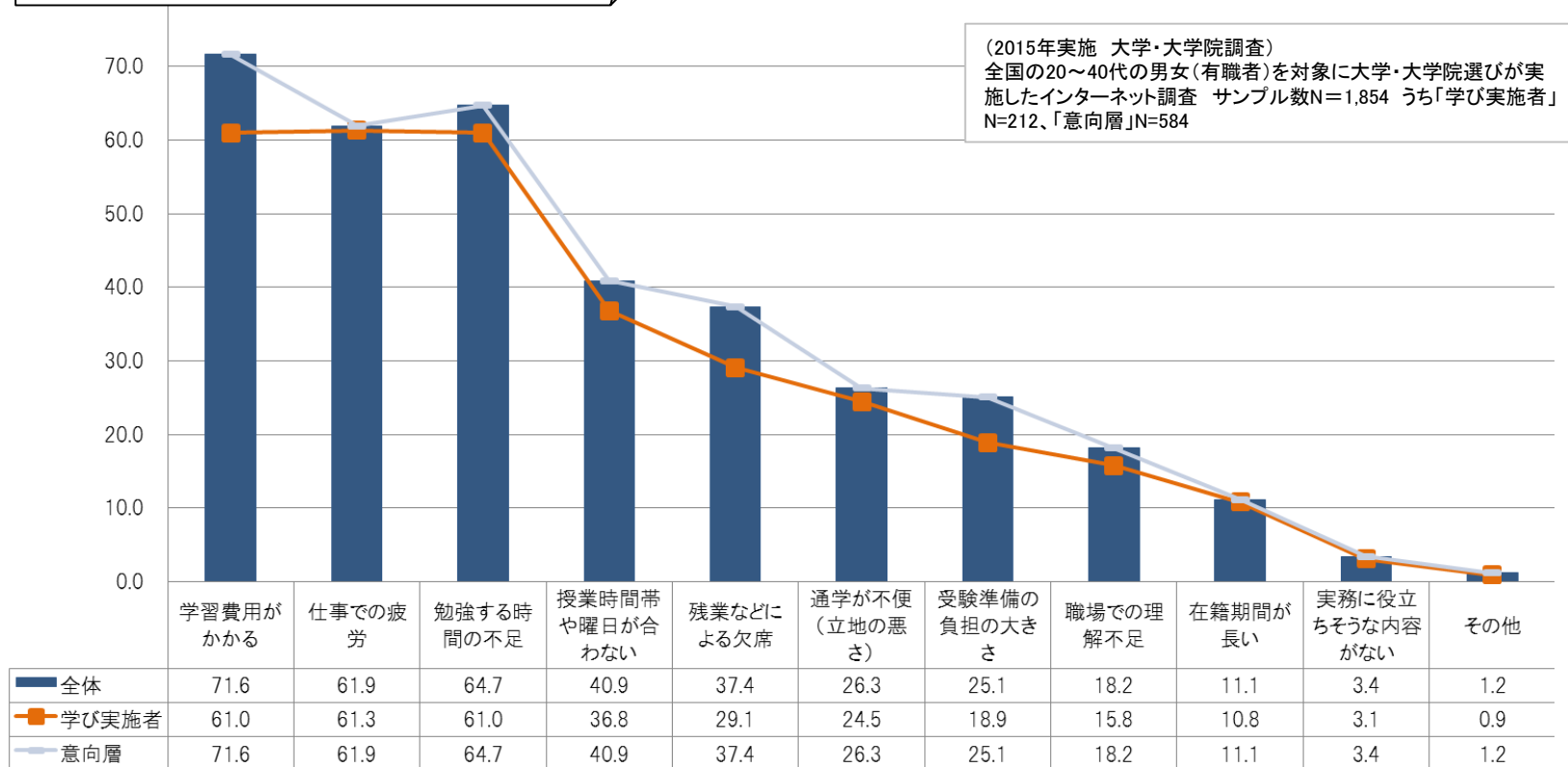
- ※ 初回で得た知識・資格が活用できていない
 - ・学校での一斉受験など、内発的な動機づけでなかった場合、就職先と無関係になってしまっている
 - ・独学で合格した場合など、人的ネットワークが得られず、その後の仕事に結び付けられていない⇒ 知識・スキルのアップデートがされず「紙切れ化」
↓
どうせ学んでもムダなのでは、という疑念がぬぐえない

「学び」が効果的かもしれない人ほど、「学び」へのハードルが高くなっている可能性がある

学習開始の阻害要因 (社会人大学院の場合)

大学院の場合、学習開始の阻害要因は『費用』『仕事の疲労』『時間』。
 学習費用は実施後にはポイント低下→**開始時の費用負担が過大なため**と考えられる

Q. 大学院への進学にあたって、障害となっているものは何ですか？あてはまるものをすべてお答えください

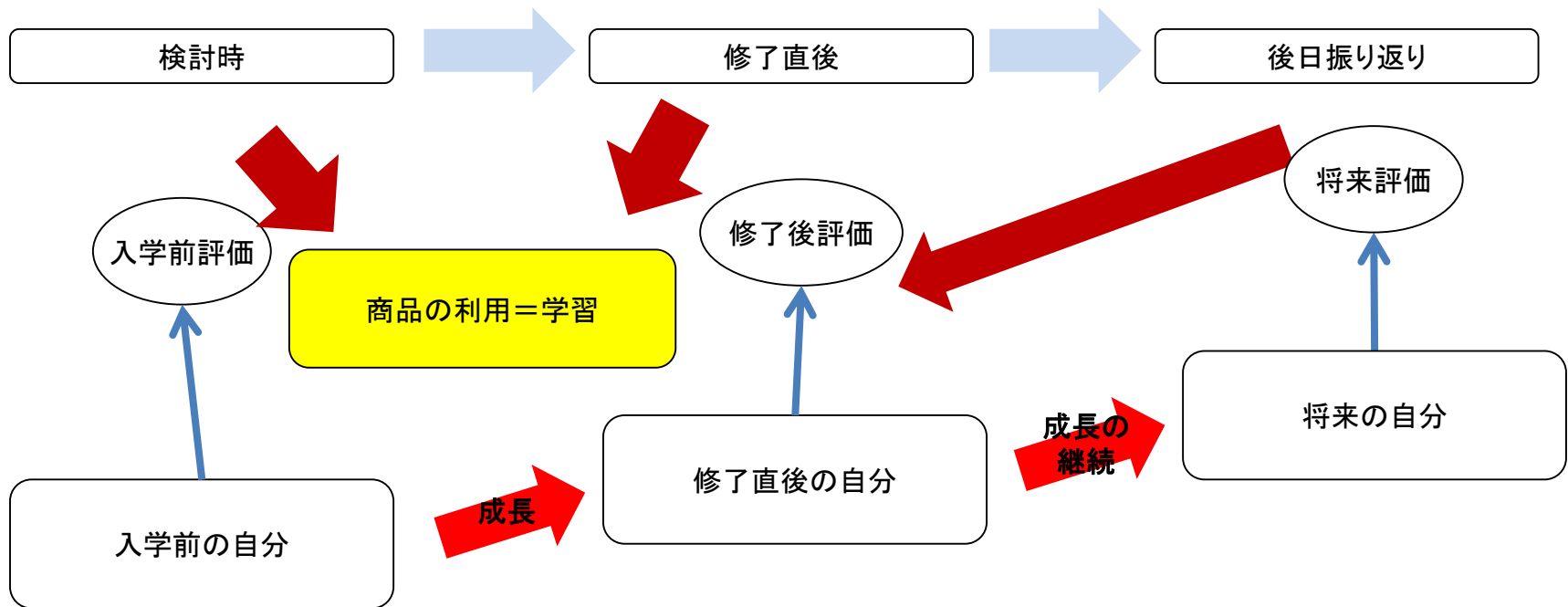


学び実施者…大学院に進学したことがあると答えた者

意向層……大学院への進学に興味がある、検討したことがあると答えた者のうち、進学していない者

「学びという商品」の難しさ

一般の商品の場合、購入前の価値観と、利用後の価値観は、基本変わらない。一方「学び」の場合、「購入」しているのは授業時間ではなく「自らの成長」。必然的に価値観は変化するため、商品購入前にその評価を行うことは原理的に難しい。
⇒ロールモデルに出会えば、評価が想像しやすくなる



**一般商材と異なり、学びの場合、
検討時に「成長後の自分」を想像して検討しなければならない困難がある**
→はじめて学ぶ人にとって、その困難はより大きい。
→一方、「学び続ける人」は修了後の成功イメージを描きやすい

まとめ

- 若年層ほど学びの意欲が高く、実施率を上げる余地は大きい。
- 実施の主たる手段は「スクール」「通信講座」。
仕事目的のスクールの場合、主要都市圏以外選択肢が少。
- 「学ぶ人は学び続ける」一方、
「学び」を実施したことがない人、若年期に失敗した人の場合、障壁が大きい
- 「学び」の高評価の要因は、教育の内容だけではなく、
教育方法・環境・バックアップ態勢。
供給コストが高く受講費用は高額となりがちだが、得られずに失敗となった場合、その後学びから遠ざかることになるリスクにつながる。
- 就職・転職目的で学ぶ人の主たるきっかけは「現職への不満」。
現職の賃金・待遇・勤務環境・成長機会の不足などが課題となっている。
- 学び始める際の課題は ①費用 ②時間・疲労 ③学びへの不安
特に仕事目的ではじめて学ぶ際には障壁が大きい。
- 社会人大学院は特に、30-40代の子育て世代で費用的なハードルが高い。

「学び直し」振興に向けて

以上のことから、下記の目的・方向性の施策が「学び直し」の振興にとって有効ではないかと考える。

学びはじめる人を増やしていくために

学び始める人・再チャレンジする人のために、「学びはじめ」に伴う資金的・時間的・心理的ハードルを下げっていくための施策

学びはじめた人を
「学び続ける人」としていくために

学び始めた人の学習を成功させて「学び続ける人」となってもらうため、学習の環境を整えるための施策

「学び続ける人」が学びを深めていくために

学び続けるうち、大学院で本格的な専門性を身につけたいと考えた方のための資金を手当てするための施策

「学び直し」振興に向けて

学びはじめる人を増やしていくために

- ① これまで「学び」を実施されたことがない方々、
「学び」への再チャレンジを考える方々の持つ
〈ハードル〉を低減させたい

1 金銭的ハードル 開始時における費用の支援

例) 初回学び時の学習支援金の給付
収入にリンクさせ、お金のない人こそ専門性を身につけやすくする

2 時間的ハードル 所属企業に対し育児や介護と同様な手当を求める

例) 正規非正規を問わず社員の学習者の早退・シフト勘案
(業務に関係なく) 学習支援企業への補助や阻害企業の発生防止等

3 動機づけ・勇気づけ 若年・現役世代に対する学習コーディネートの推進

例) 「学ぶ動機」を推進できる専門職の設置、
キャリアコンサルタントへの「学びの学習」を通じた活用や、
企業就職ではない多様な職種理解の推進

「学び直し」振興に向けて

学びはじめた人を「学び続ける人」としていくために

② 学んだあとの「失敗」を防ぐことで、「学び続ける」人を増やしていきたい

1 学びの活用につながりやすい講座を認定し、増加を目指す

学びの内容ではなく、
実習・実技、アクティブラーニング、勉強会のコーディネートなど
専門性を活かしやすい教育方法・環境・バックアップ態勢を持つ
講座を選定し、支援の対象に。

また、地方在住や土日・夜間の勤務などの事情に合わせ、
スクーリングやバックアップが充実した通信講座も対象としたい。

2 学習後の活用につなげるコンサルテーションの実施

仕事に活かすための訴求方法のアドバイスから、
学びと仕事の相互フィードバック、
人的ネットワークの拡大などをサポート

「学び直し」振興に向けて

「学び続ける人」が学びを深めていくために

③ 学習継続を可能にするための支援を行いたい

金銭的ハードル 受講料が高額となる「大学院」の無償化

「学び」を続け、それを仕事に活かしてまた学ぶ、と活動するうち、より本格的な専門性を身につけたいと大学院への進学を検討しながら、子どもの進学と重なるなどの理由から金銭的な手当がつかず進学を一定の間あきらめてしまう社会人は非常に多い。

一方で、

こうした、時間と労力を厭わずに注ぎ込み仕事と学びを往復する社会人は社会的な価値を創造するうえで貴重な存在。

そこで、その学習が社会的なニーズと合致する場合に、その学費を「無償化」「給付型奨学金」などの形で公的に負担することを提案したい。

対象案) 専門職大学院、BP対象大学院

あるいは、研究計画書による個別審査

「学び直し」振興に向けて

【学習コーディネートの専門職像】

●配置すべき場

ハローワーク、各種キャリアセンターなど就職・転職支援の場、
転職相談や派遣登録、転職フェアなど転職支援企業、民間スクールの説明会・業界セミナーなど、
学び直しが効果的な役割を果たす可能性のある方が訪れる接点

●果たすべき役割

【学習開始まで】	学びへの動機づけ、学習すべき内容のガイダンス
【学習中～学習後】	学習した内容を実地で経験できる場とのマッチング 学習修了後の就業・独立開業、および継続学習の支援

●求められる専門性

- ・**学習の動機づけ**に関する**理論**、および**学習内容**(職業資格、専門スキル)に関する広い**知識**
- ・現職への不満などを燃料に、個人の持つ成長意欲を引き出す支援を行う**カウンセリングスキル**
- ・学習後の将来イメージを明確化し学習意欲を確かなものとする**コーチングスキル**
- ・学習中～学習後、実地経験を積むことのできる場とのマッチングを行う**コーディネーションスキル**
- ・学習後、人的ネットワークの構築方法、学習内容の訴求方法など
就業や独立開業への道をガイダンスできる**コンサルテーションスキル・知識**

●隣接専門職

「キャリアコンサルタント」は、上記の「配置すべき場」で職務を行っており、また、求められる専門性についても多くの点で共通性がある。また、「学び」は広い意味での「キャリア」の一部でもあるため、「キャリアコンサルタント」については、一部の専門知識・スキルを身につけることで「学習コーディネート」を担うことができる可能性が高いと考える。